

喜怒哀楽 地方にこそニュースがある

関西 知 探 解

コロナ下 隙間を埋める底力

大阪の中小反転攻勢で商機狙う

新型コロナウイルスの影響で、3密を避けるなどの「新しい生活様式」が生まれた。人々の行動が少しずつ変わる中で、大阪の中小企業、ものづくり企業の中には手掛けてきたビジネスモデルの転換を余儀なくされたところもある。ただ、アイデア勝負でユニークな商売を生み出すことに定評があるのが大阪のものづくり。コロナ禍でも、大企業とは一線を画した隙間需要、いわゆるニッチなニーズを捉えようと、新商品の提案を始めている。

(西川博明)

円で森林浴

一時的に品不足になり、感染防止グッズとして新しい生活様式の日常に欠かせなくなったマスクは今、素材や柄、形などユニークな商品が続々登場している。

大手企業の間でもシャープやミスノなど異業種からの参入が目立ったが、お弁当などに入っている小さなアルミ箔製のカップが主力製品の木村アルミ箔(大阪市中央区)が新たに商品化したのが、間伐材からできた糸を使う「木糸マスク」(税込1600円)だ。

「もともと木糸を何か製品化できないかと検討してきた」と語るのは、同社の山路浩志・執行役員開発部長。国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の一つ「陸の豊かさを守ろう」という考えを実践しようとして試行錯誤の中で、マスクへの活用を決めた。昭和5年創業の同社がマスクを製造するのは、もちろん

初めての挑戦になる。木材由来の素材でできたマスクは地球環境に配慮し、抗菌性も期待できるのが売り。「木の香りが癒やしにもなる」とアピールする。

「飯は何%?」

外出自粛ムードが長引き、自宅での過ごし方も大きく変わった。お弁当箱な

どのプラスチック製日用品を製造するオーエスケイ(大阪市東住吉区)は、自宅で食事を楽しむためのアイテムを提案する。さまざまな大きさ、色合いの扇形の皿を、円形の皿の上のせて円グラフのようなレイアウトを築しめる食器「%PLATE(パーセントプレート)」(2)



9月、大阪市内で開かれた展示会「ライフスタイルWeek」で大阪の中小企業が売り込む製品の展示に見入るマスク姿の来場者ら(大阪住之江区のインテックス大阪)。西川博明撮影

3枚入り税別500円)を新たに製品化した。企画室の浅野剛次氏は「外食を控え、家庭での食事が増える中で、食卓に新たな彩りを提供する機会になれば」と話す。

新型コロナウイルスの流行で、役所の窓口や小売店のレジ、飲食店のテーブルなどで当たり前になったのが、ビニールカーテンやパーテーションなどの透明な間仕切り。会話のやりとりで飛び交う飛沫感染を防ぐのが目的だが、そんな新しい日常の光景にユニークな発想で商機を探る企業もある。

干支の置物や箸置きといったガラス細工の製造・販売を手掛けるブリーズ(大阪市中央区)は、ジュエル素材「スーパーハード」(4000円入り1250円)の事業を9月から新たにスタートした。アルファベットの文字などに加工し、透明な間仕切りに張り付けられ、メッセージボードに変えられる。下川修世社長は「新型コロナウイルスで気分が落ち込む中で、無機質な雰囲気を変えることができるのではないかと話す。

新型コロナの影響で、海外からの訪日客が激減し、

菓「もり」工作



ユニークなマスク関連グッズ

木村アルミ箔(大阪市中央区)が製品化した「木糸マスク」。間伐材からできた木糸を素材にした。



サム企画(大阪市中央区)は、プラスチック製のマスクケース「サムマスク」を開発した。

カシテック(大阪市中央区)の「ミニハンドプレス」簡単にプラスチック製のマスクが取り付けられる装置で、マスクも便利。



三友(大阪市中央区)が販売する「マリモ」ボールは、植物由来の酒粕成分を含んだ繊維ボールを水道水に入れるだけで、除菌消臭スプレーとして使えると提案する。

自設設計会社大阪(市東区)が商品化した「ポペン」テレワークにも活用できる。

ダセロ(大阪市天王寺区)が「ラジオ受信機とイヤホン」を一体化した製品。

ブリーズ(大阪市中央区)が提案する素材の製品「ハード」。透明シヤパーテーションに張り付けて飾ることができる。

アップリカ(大阪市中央区)の「ハンドメイドギ」のキャンドルやブー



新しい生活様式にもびったり

デザインポケット(大阪市中央区)が製品化した「食品サンプル工作キット」。



オーエスケイ(大阪市東住吉区)が製品化したお皿「%PLATE(パーセントプレート)」。

サム企画(大阪市中央区)は、プラスチック製のマスクケース「サムマスク」を開発した。



三友(大阪市中央区)が販売する「マリモ」ボールは、植物由来の酒粕成分を含んだ繊維ボールを水道水に入れるだけで、除菌消臭スプレーとして使えると提案する。

自設設計会社大阪(市東区)が商品化した「ポペン」テレワークにも活用できる。

ダセロ(大阪市天王寺区)が「ラジオ受信機とイヤホン」を一体化した製品。

ブリーズ(大阪市中央区)が提案する素材の製品「ハード」。透明シヤパーテーションに張り付けて飾ることができる。

アップリカ(大阪市中央区)の「ハンドメイドギ」のキャンドルやブー

大阪の商品開発力

しかし、そんな中でもニッチな需要を見つけて、反転攻勢の機会をうかがう企業も多い。公益財団法人「大阪産業局」で中小企業やベンチャー企業の支援を担当する徳中絵美さんは「大阪の中小企業はスピードに新たな事業を展開するのが強み。オンラインウツ(唯一無二)の技術やアイデアを持つ宝庫」と分析している。新しい生活様式に合った製品が今後も続く可能性は大きい。

レイアウト...荒井薫
グラフィック...清水浩二

にしかわ・ひろあき

平成10年入社、昨年12月から大阪総局東大阪駐在。主な取材テーマは中小企業。東大阪ブランド推進機構(東大阪市)によると、全国の主要都市で、大阪市は事業所数が1万8千社以上で日本一、事業所が集まる密度が隣の東大阪市に次ぐ全国2位で全国屈指の「中小企業のまち」だ。こうした大阪の企業から生まれるユニークなビジネスの動向に興味は尽きない。